

神戸の風色

KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO.4





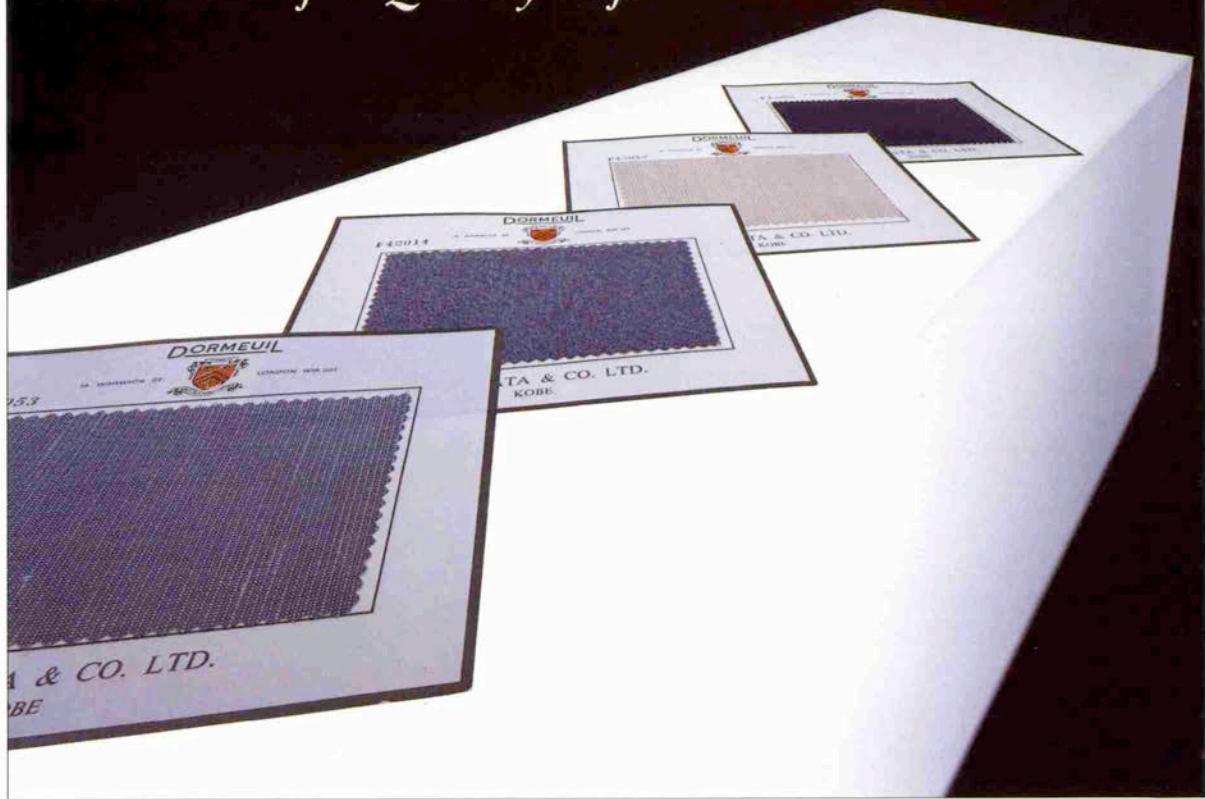
SAKAI

UMEMARU

SAKAI

YAS

Most Beautiful Quality Life



DORMEUILを始め夏服地が豊富に揃いました。

創業明治十六年



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 TEL(078)341-0693

大阪・高麗橋2丁目 TEL(06) 231-2106



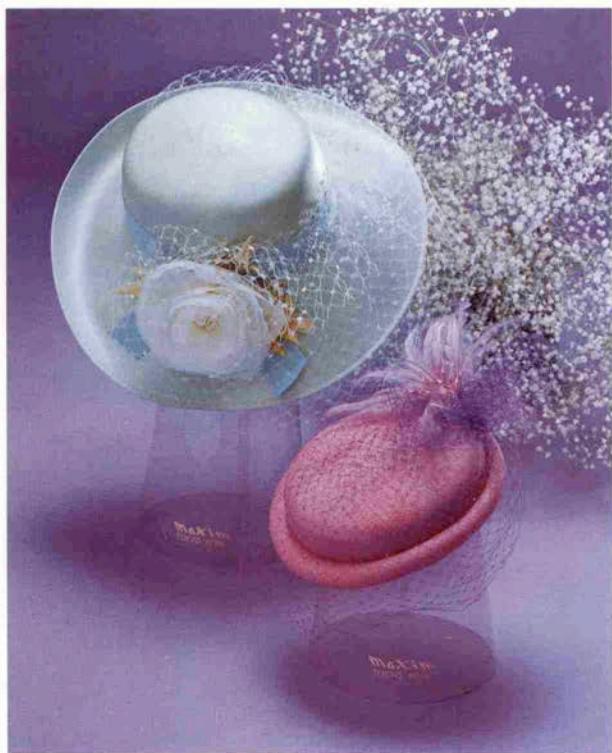
優しい春 ほのかに甘い春風にのせておとどけする
オリジナルファッショ。鮮やかな新緑の季節に
活動的なあなたを より生き生きと演出します。

婦人帽子

マキシン
maxim

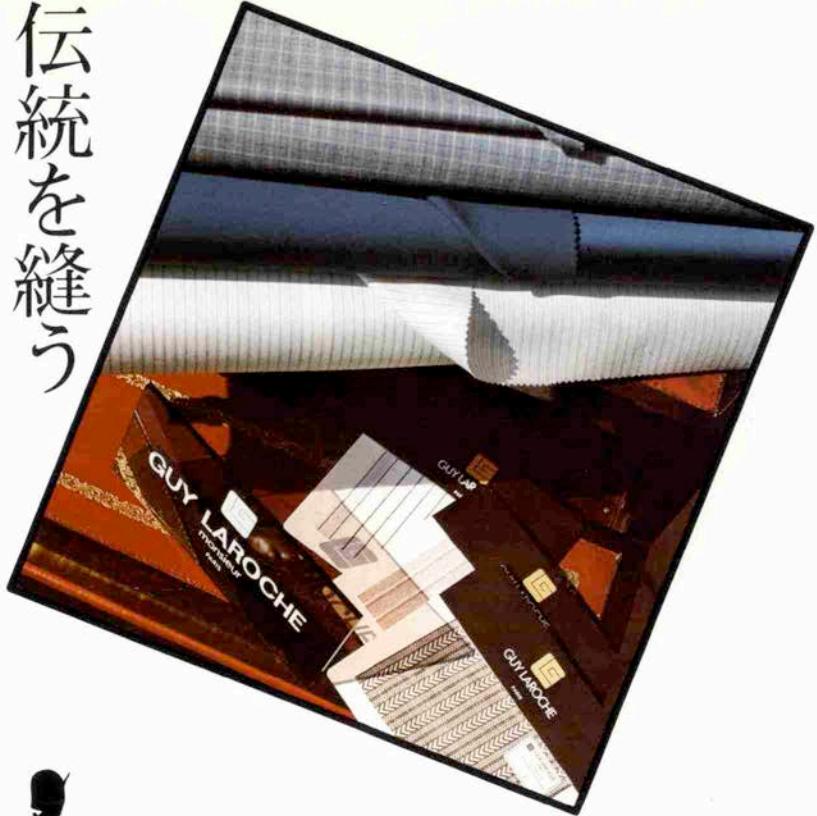
神戸市生田区北長狭通2丁目8(トアロード)TEL078-331-6711~3
東京店 / TEL03-494-3129~30

'80 Spring-Early Summer Collection



初夏、夏物が入荷しました。

伝統を縫う
手づくりの風格



TAILORING FOR
CONNOISSEUR

Watanabe

洋服・紳士
渡邊

神戸市葺合区磯上通8-1-32 グリーンビル ☎(078) 251-8501(代)
東京・大阪・神戸・姫路

A
Etienne Aigner



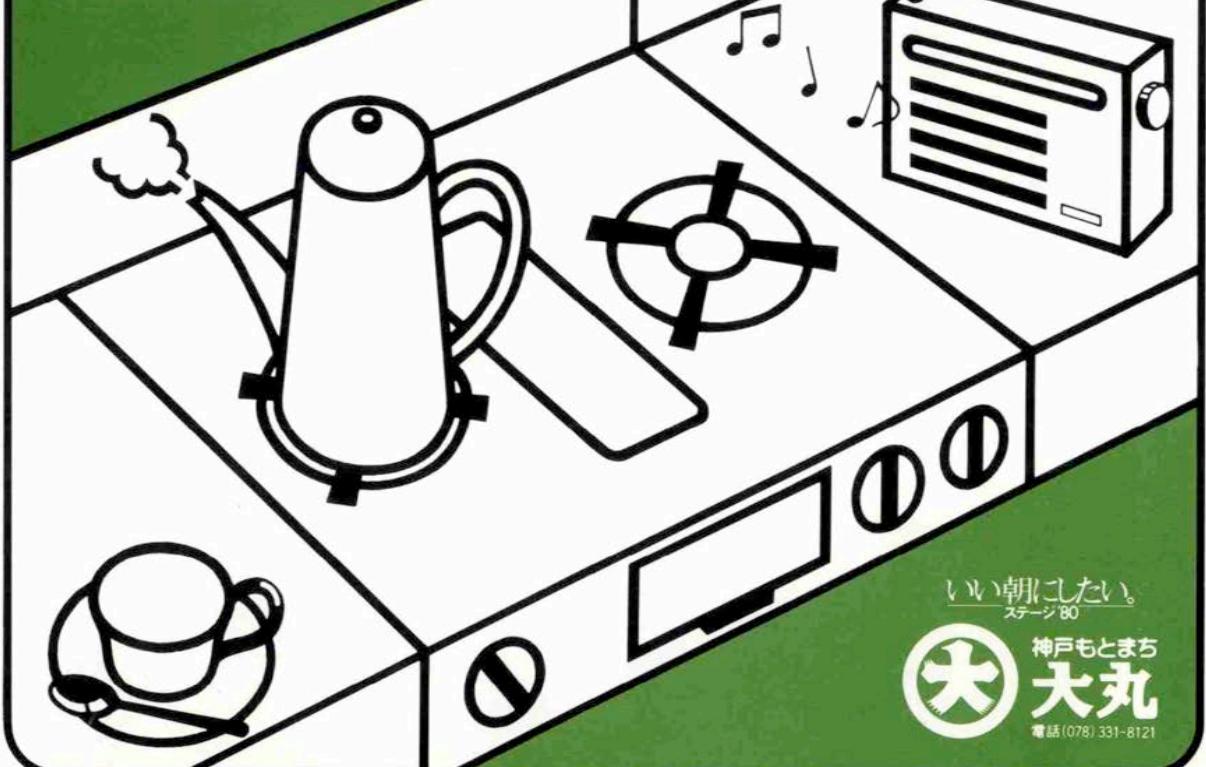
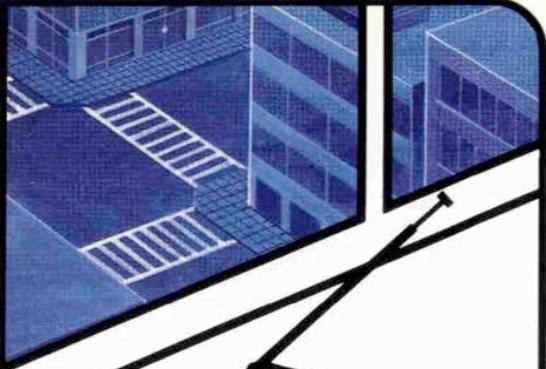
cassandre
Kobe aoi 391-3985

神戸市生田区三宮町2丁目
センター・プラザ西館113

FMから軽快な音楽。 ウキウキする自分が聞こえてくる。

ケトルがジンジン音をたてている。ミディアムテンポのカントリーソングが、朝をたたえている。陽気なリズムが、かんだの中に流れてくるのがわかる。こんな朝だ。なにもかもが、うまいきそな気がするには。

●朝の快適なスタートが、きょう1日を決定づけることがあります。365日、さわやかな朝を迎えることができたら、素敵です。朝のようすにすがすがしい暮らし——新しい時代のメッセージにのせて、大丸がおとどけします。

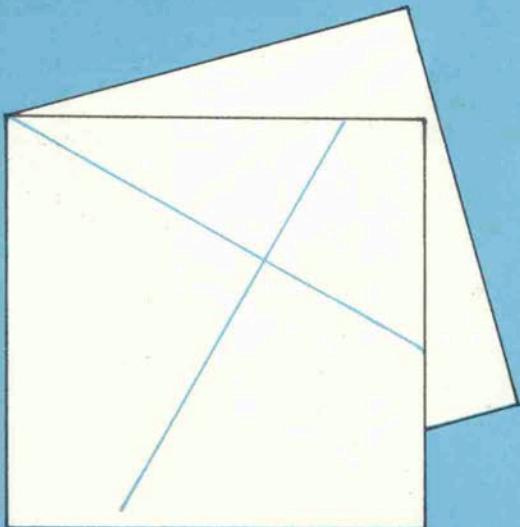


いい朝にしたい。
ステージ80

神戸もとまち
大丸

電話 (078) 331-8121

Kazuya Kinoshita



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

4月号目次 1980・No.228

表紙／小磯良平
セカンドカバー／僕の見た神戸(16)

9. 神戸っ子'80／浅野ゆう子／南 和好
- 13 ある集い／中内学校
- 15 コウベ・スナップ
- 16 画人・神戸(4)／鶴居 珑
- 18 神戸の風色(4)／堀内初太郎
- 29 私の意見／瀬川伸宏
- 31 隨想／梅村光明／山内鈴子／権忠／海野光子／市野木江充子
- 36 ある集いその足あと／有吉雄太郎
- 38 連載エッセイ・私のひろいもの(16)／竹中 郁
- 40 神戸歳時記(4)／北野浄水場の桜／文・三枝和子／絵・元永定正
- 43 地域文化論(8)／水谷耕介
- 44 キャンペーン・国際文化都市神戸を考える(30)
神戸をイキイキとした情緒ある町に
川上 勉／小林新二／中内 力／松宮隆男／渡辺千城
- 50 ポートアイランド情報
- 特集 神戸のオリジナル・ファッショhn (MADE IN KOBE)
- 54 ①ファッショhn・メーカー
座談会／木口 衆／木村 豊／稻岡必三
質のいい物を作ることがメイド・イン・コウベの条件
- 60 ②ファッショhn小売店
座談会／坂野通夫／松谷富士男／渡辺利武／大牧晴男／藤井節子
流行を越えた品質の良さに漂う神戸らしさ
- 66 ③洋菓子
座談会／光葉貞夫／河本 武／前田昌宏
全国的に群を抜く水準、生活に溶け込む洋菓子
- 72 ファッショhn・レポート／K·F·Mファッショhn・ショウ
- 76 KOBE FASHION SPOT
- 86 NEUE MODE MÄRCHEN (28)／篠原順子
- 102 アンド・神戸／田辺聖子
- 113 神戸の催し物ご案内(4月)
- 114 動物園飼育日記(17)／亀井一成
- 117 神戸の集いから
- 118 六甲山100コース85地獄谷西尾根／渡辺嘉雄
朝ハチノス谷／今井拓雄
- 123 ノコちゃんの華麗なる食べある記(16)／小山乃里子
割烹吉本／ギリシアビレッジ
- 126 話題のひろば①ダイエー売上高一兆円達成
②高崎研一郎えびら賞受賞記念展
- 130 神戸を福祉の町に(76)／橋本 明
- 132 バントマイムジュンズⅡ・4／岡田 淳
- 136 私の映画手帖(28)／淀川長治
- 139 女体百景(93)／ヨカの女／細川 葦
- 140 KFSニュース
- 141 びっといん
- 142 ポケットジャーナル
- 143 神戸百店会だより
- 144 連載小説 滴ける間(4)(第4回神戸文学賞受賞作品)
高木敏克 絵／木村光佑
- 145 連載小説 影と棲む(4)(第4回神戸女流文学賞受賞作品)
田口佳子 絵／田中徳喜
- 146 トーク＆トーク トランペルコーナー
- 147 編集後記
- 148 再びアルファベットアベニューの「K」／新井 満・石版春生
149 海 船 港／クエート貨物船「アルマブク号」

●スギヤお店めぐり
〈六甲店〉

独自のスギヤカラーを中心に
コーディネイトの楽しさをお勧めしています。



「六甲界隈のお客様は、ミセスでもお洒落センスのいい方が多く、私たちもとてもいい勉強になります。」

と語るのは六甲店店長の中村マサ子さん。
(左)お客様がどんなものをご希望なさっているかを常に把握し、コーディネートさせる、ベテラン店長である。流行にどうわかれず、必ずシーズンの中で独自のスギヤカラーを中心にして商品を展開して行くという六甲店の姿勢は、ハイセンスタウン六甲で、ひときわ光っているようだ。

LADIES' WEAR KOBE OSAKA TOKYO
SUGIYA

本店 神戸トアロード 電話078(331)3436

名谷店 名谷須磨パティオ 電話078(792)6066

阪急神戸店 阪急百貨店神戸支店内 電話078(321)3521

六甲店 阪急六甲駅ファミリーストア内 電話078(871)2733

芦屋川店 阪急芦屋川駅ファミリーストア内 電話0797(31)8193

宝塚店 阪急宝塚南口駅ファミリーストア内 電話0797(73)1244

梅田阪急三番街・心斎橋パルコ・戎橋ホリティインスクウェア・西武大津店・池袋パルコ・西武宇津宮店



春がステレオでやつて來た。



トータルコーディネートファッショ

- リザ・サロン
- アクセサリー内外雜貨
- ルイ・ミッシェル
- COLLEGE SHOP
- CABIN
- パリ・ナウファッショ
- フランス・アンドルヴィ
- パリ・ナウファッショ
- ジョージ・レッシュ
- 東京銀座・婦人靴
- ダイアナ
- 舶来婦人靴専門店
- Pia
- ヤング・ファッショ&ブライダルサロン
- ルベール
- ヤング・アダルト・ファッショ
- ランブ
- ファッショ・バッグ・アクセサリー
- 美呂
- 原宿・婦人服
- CAN
- 銀座・婦人服
- ゲルラン
- 婦人服飾
- 東京屋
- 新宿・レディス・ファッショ
- 高野
- おしゃれな靴の店
- BONフカヤ
- コンテンポラリーファッショ
- ザ・コレクション
- 宝飾・ビュテリー
- ココ山岡
- 東京ギンザ・レディス・ファッショ
- 三愛

FASHION PARK

神戸・三宮
さんプラザ・センターブラザ
3F

〈そごう〉が選んだ

陶芸の幹

題字 望月美佐

侘びにしあらず。



荒川豊成作(唐津茶器)



神戸三ノ宮
そごう

TEL 078-221-4181

●写真作品についてのお問い合わせは
美術画廊6階・内線078-221-4181まで
ご連絡下さいませ。

■4月25日金→30日本
納 個 展
ヒマラヤ・スキッチの旅
アンナブルナとその周辺

林 英 仁 茶 陶 展

●4月18日金→23日本
■美濃の新鋭
健 個 展
アーティストによる
アート作品

●4月11日金→15日火
■特別企画
第6回 現代洋画秀作展

●4月3日木→9日本
■イタリア ポロニア
国際児童図書展グランプリ受賞
米倉斎加年絵本原画展

□美術画廊(6階)

4月の
画廊催し案内

☆私の意見

愛国少年の夢

滝川 信宏

^NHK神戸放送局長▽



昭和初期、小学生だった私は、世界地図を見る度に赤く塗られた日本列島の小ささに幼い胸を痛めた。こんなに狭い国土で果たして世界の列強に伍していくのか。

山でも削って海を埋められないものかと愛国心に燃える少年は真剣に考えた。敗色濃くなった昭和十九年、勤労動員で琵琶湖の干拓作業に従事した。湖を干上げて農地にしようという計画は、私の願いに叶つたもので勝利の日を信じて、泥まみれの青春を送った。

昭和三十九年七月、当時の原口、官崎の市政コンビは神戸市議会に人工島構想を説明した。“山、海へ行く”この壮大な構想は、当時、NHK神戸のニュースデスクをしていた私にとって、少年の日の夢が二重写しとなつて胸の高鳴りを覚えた。

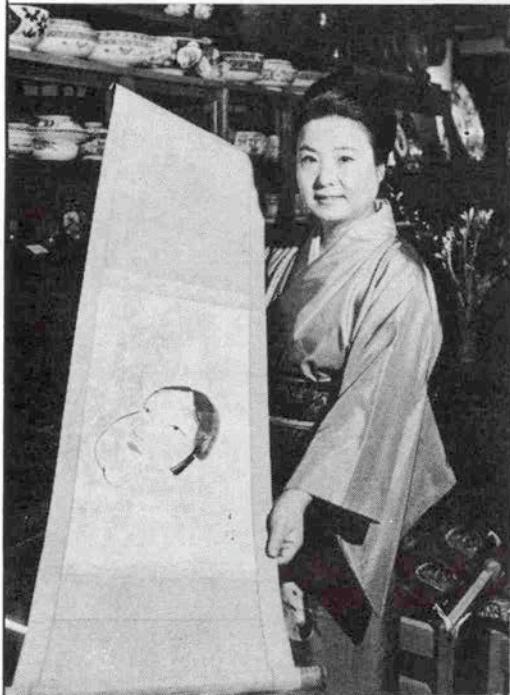
そしてまた十五年の歳月。今度は局長として再び神戸へ。暑い一日、甲子園の百二十倍という広大なポートアイランドに立った。四三七ヘクタールは、日本全土からみればほんの一点にすぎない。しかし狭い日本列島は確実に広くなっていた。白い夏雲の彼方に、狭い日本を嘆いた遠い日の思い出が甦った。

もう戦争はない。しかし土地は広く、人口は少ないにこしたことはない。折しも昨年暮、神戸市の人口は札幌市に抜かれ六大城市の栄光の座から転落した。都市の活力が失われていくとして、港町エレジーと嘆く声も聞かれる。しかし大都市としての機能や風格は、札幌の比ではない。人多きが故に尊からず。人口増は諸悪の根源。新しい海の文化都市ポートアイランドで、二万人の市民が豊かに暮らす日も近い。

かつての爱国少年の夢を実現したこの人工の島で、一年後には、ポートピア'81が華やかに開幕する。住みよい街をめざして、六大城市の座を札幌に譲った神戸の“自然の英知”に拍手を送るとともに、ポートピアを起爆剤にしての二十一世紀への飛躍を祈りたい。いつの間にか、エレジーは消えた。耳をすませば潮騒の間から“港町讃歌”が聞こえるようだ。

幸せが来るような
“おたやん”集めて7年目

ANAN
あんちっく
シリーズ
5



“おたやん”は、私と似ていて、何だか他人のような気がしないのですよ。

あんちっく AN AN
庵

神戸市生田区三宮町2丁目1番5号
センターブラザ西館3F306号
中尾 忠義 ☎392-3471

千葉 和子
牛のママ

庵々の中尾さんから
もこの掛袖、大鉢な
ど3点いただきまし
た。すてきでしょ
う。

刀劍 古美術



ブロンズ 昭雲作（高さ42cm）
一宮金次郎像 135,000円

毎月20日 無料鑑定
研磨、白サヤ、その他工作
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剣
古 美 術 **元町美術**

神戸市生田区元町通6丁目25番地
三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081



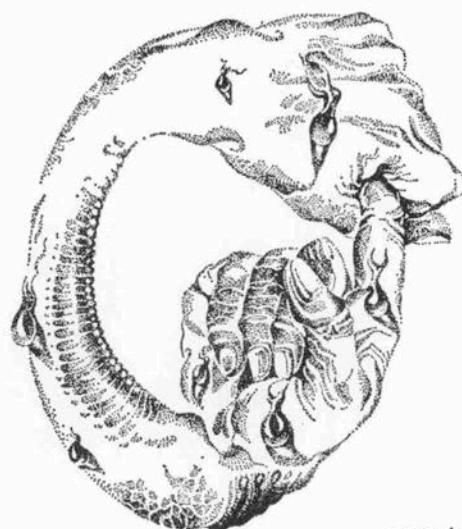
生を
超える
詩を……
^詩人▽

梅村 光明

一昨年出版した私の詩集『破流智斎』にまとめられた作品の中には、それまでに私が経験した旅行から取材したものが幾つかある。私の詩には固有名詞が多く出てくる。それはひとつのがループとして、前橋、由良川、小豆島、丹後半島、龍野、嵯峨野などに見られる通り地名が多い。旅行と言っても全て遊びの旅だが、見知らぬ土地へ行き、帰つてくるという繰り返し、その中へ記憶を辿つていき、詩を書くことに

隨想

第9回／ブルーメール賞を受賞して



1980.ChuEnoki

カット／榎忠

よって、空間を旅し経過した時間、紙の上に定着させることができる。それは日常と異なった時空間に於いて眼にした事や、体験した事柄を日常に内的対峙させることによって、日常を超えるイメージーションを言語として形象化でくるということである。紙上の戯れかも知れないが、白紙の状態に自分の言葉で、自己の世界を創造するという喜びを感じる。それは子供が遊戯することによって自己の世界を獲得し、拡げていくこ

とに似ている。むしろその延長線上にあると言えるだろう。

私の詩には前述した旅行経験から書かれた詩の他に、過去の記憶や読書体験、決定的な歴史の時空間に触発されて書いたものがある。そこではスーザン・ビカソ、ダリ、飯島耕一、生田春月、萩原朔太郎、それに久坂葉子などの人名が登場する。それらの人々の作品、あるいは内的世界の一端に触ることにより、その人達が生きた時代や状況への、いわばイメージーション・トリップを行ない、自己を照應させることで存在確認ができた。

生田春月を想起したのは播磨灘を行く船上でだった。そして久坂葉子を感じたのは数年前の大晦日、最終電車が通過した後の阪急六甲駅の線路上だった。二人共それらの場所で自ら命を断つている。(それは断言できないが)私はその場所では立ちつくさずに詩を書いた。

久坂葉子は十九歳の夏に上高地・乗鞍へ旅行をしているが、これも自殺した芥川龍之介は槍ヶ岳へ二十歳の時に登頂しており、それを記録した小文も残している。それぞである時期に自然に親しんでいるのだが、自ら命を断つ瞬間には、内的世界と曾て遊んだ自然との間に、遙かな距離があつたので

はないかと思つていてる。

「欺かれやすいものは感覚だが／その欺かれる哀しさにこそ／美は現れると知つてゐるか／野に遊ぶのは幼な子たちか／白髪の老婆たちか／さまざま／苦しみのうちに時は過ぎるけれど／無聊の苦しみにまさる苦しみは無い／悲な日々を願うあまりに／感覚の驚きを怖れはならない／運命と遊び戯れて限りある生を終えよう」これは谷川俊太郎訳の前三世紀頃の東アジアの古謡の一節だが、日本にも平安時代末期の今様歌謡集『梁塵秘抄』に「遊びをせんとや生れむ、戯れせんとや生れけん、遊ぶ子供の書きけば、我が身さへこそ動がるれ」という歌がある。兩者は作られた時空間は異なつてゐるが、それを超えた人間の普遍性が読みとられ、素晴しさを感じると共に、私も生きる時空間は限られていくけれど、それを超えるような詩の一編を、今回のブルーメール賞を発表にして書いて行きたいと考えている。

一九七九年の夏、私は音楽研修に、何度か訪れたウイーンの町を歩いていました。長い歴史を生き続けた深緑と、数多の花々で彩られたヨハンシュトラウス公園は、訪れる都度、心の和む場となつています。

木陰から射すやわらかな陽光がその日の午後もヨハンシュトラウスの像の面を時間の経過と共にゆっくりと移動して行く……そんな静かな風景でした。数少い人影の中で、一人の端正な老紳士がベンチで長い間腰をかけてこの場所にとけ込んでいた。やがて観光客らしい家族づれの中



出来事 ウイーンでの 小さな

山内 鈴子

ヘビアニスト

新型編隊について

から二人の子供が、ヨハンシユトラウスの白い石像の廻りで遊び始めた。突然その中の一人が、囲いの中の花にかこまれたその像の下から一気に靴でよじ登り、小さな歎声を上げました。日本の公園で遊ぶ子供達の習性に馴れていた私には、それ程不自然とも感じられなかつた一瞬、それまで像のよううに佇んでいた老紳士が背筋を伸ばして立ち上ると、鋭い声音でただ一言、「下りなさい」と短かく子供をたしなめました。あたりの静寂の中に何となく気品を込めた低い声が響き、その声はまるでウイーン市民全員の氣持を代表しているかのようでした。

ウイーンに住む人々には当然の情景だつたかも知れません。しかし、他国から訪れた私には、公共の花や像を大切にするその氣持は小さな感動の一瞬でした。

自然の中に、自然にふるまう人々、ためらわずにたしなめる心、直ちに反応してこれに従う心、これを目撃して感じる心。環境が人々の様々な心のふれ合いを創り出す大きな力であると考えさせられた、ある日の出来事でした。

「下りなさい」と短かく子供をたしなめました。あたりの静寂の中に何となく気品を込めた低い声が響き、その声はまるでウイーン市民全員の氣持を代表しているかのようでした。

ウイーンに住む人々には当然の情景だつたかも知れません。しかし、他国から訪れた私には、公共の花や像を大切にするその氣持は小さな感動の一瞬でした。

自然の中に、自然にふるまう人々、ためらわずにたしなめる心、直ちに反応してこれに従う心、これを目撃して感じる心。環境が人々の様々な心のふれ合いを創り出す大きな力であると考えさせられた、ある日の出来事でした。

榎 権忠
△造形作家



桜の花が少し脹らみかけた頃、どか、この辺の小学生の集団と毎朝同じ場所の同じ時間に会う。九人で決った型での編隊である。その編隊がこの間から変つていて、前列にいた一番大きな男の子と

最後列の女の子がいない、かわりに前回より小さな可愛らしい子が加わっている。ときどき編隊が変形しているメンバーが新しく変つてまだ慣れてないのか新しい先頭の子はウロがきている。高学年が車道側を歩き低学年を危険から守るため編成された事と思う。

毎日会っていた先頭の男の子と最後に歩いていた胸の少しふくらんだ女の子とはもう会えない、中学生にいったんだなあと思いつし淋しい気持だが、今まで新しい編隊をみていると気持が和む、先頭に来た男の子の心配をよそに、はじやざまわっている新しいメンバーが少し危ながしい。

この編隊と一年間毎朝会うのだが一人でも欠けていると病気かな

とかいろいろ心配させられる。私はこの編隊をくずさないようによけて通る。家を出て四十分ほど歩いているがこの編隊に遭遇すると元気が出てくるのが不思議だ。私はこんなにきちっと編隊を組んだグループは他でみたことがない、もしバラバラだったら私は何もじなかつただろう。まだ少し冷たいが楽しい春の風が今も通り過ぎていった。

この編隊に会つた時、フワーと感じた快感と、組織化されたパタンを壊すことに快感をおぼえる私。最初は目新しいが單調な日々の連続だと、突然長い髪をふりみだしてこの新型編隊に飛びこむと子供達はどのように逃げるのか、想像すると笑いが込みあげてきてしかたがない。子供達を見守る気持と壊す楽しみの境目が自分でもときどきわからなくなる。

制作している時もなるべく目的と発表の有効性を發揮できる瞬間を煮つめられるだけ長く煮つめておくようにしているが、途中で発射してしまう。僕は本当に確たる信念をもつて製作発表をしているのか、いつもやつてしまつた後で思つ。腹立つなあ、そうまだ若いから辛抱ができないのだ。でも我慢できなくて発射してしまう行動にはいつも変化が生れて来る。僕はひょとしたら変化させてい

るものに熱中していく事に喜びを感じているのではないか、だから散發的ではあるが自分の持つてい全部を発射してしまわないと気がすまない。たえず身体の中をカラッポにするのだが底の方に何かが残っている、そんな自分がはがゆい。だがその残っている飢えが、またムズムズさせる。僕が歩く事によって、いつになるかわからないがムズムズが大きくなればなにかやつていいだろう。

無限の

可能性と

エネルギー

海野光子

（カナディアン・アカデミー日本語日本文化部長）



何度もやめようと思つたかわかりません。でもその苦しさを乗り越えると、また来年も、と思うのです。そしてとうどんことは十年目を迎えました。

「十周年記念公演」をすることの困難さに挫けそうになつて、矢先、「神戸つ子」から「ブルー

メール賞」授賞のお知らせを受けたのです。この十年間の苦労が報われた思いがして、どんなに嬉しかったことでしょう。また続けてゆく勇気がわいてまいりました。本当にありがとうございました。

すでにご覧いただいた方はご承

知と存じますが、「仮名手庵歌舞伎」は、単に外国人の「物まね」というのではなく、プロの歌舞伎にも負けない実力を持つていてと
言つて下さる方もあるほどで、今や神戸名物の一つなつておりま
す。「石の上にも三年」と申しますが、十年続けるということは並

大低の苦労ではありませんでした。ではなぜそれほど苦労してまで続けて来たかと申しますと、それは私に三つの基本的な考え方があつたからです。

一つは、生徒達に、日本に滞在している間に、日本の文化、特に

日本の伝統文化を身をもつて学ぶことによつて、日本人の心を理解してもらいたかったのです。人間

の心を浅く皮相的にとらえるのではなく、もっと堀り下げるところによつて、古今東西変わら

ることによって、日本人の心を理解してもらいたかったです。人間

の心を浅く皮相的にとらえるのではなく、もっと堀り下げるところによつて、古今東西変わら

ることによつて、日本人の心を理解してもらいたかったです。人間の心を浅く皮相的にとらえるのではなく、もっと堀り下げるところによつて、古今東西変わら

ることによつて、古今東西変わらない人間の心を理解してもらいたいのです。生徒の一人は、プログ
ラムの「プロフィール」の中で、「僕の何よりの願いは、歌舞伎を通して、日本人と外人が一つになつて、僕たちは同じ人間なんだ、と
いう事に気づいてほしい事です」と言つておりますが、まさにそれが私の第一のねらいなのです。
次は、ともすれば日本人は、日本
の伝統文化は日本人にしか理解できないものと思い込みがちで
す。けれども、本当にすぐれたものならば、「芸術に国境なし」と
言われるよう、広く世界の人々に理解されるものであると思いま
す。ですから私は、外国人が高い水準の歌舞伎を演することによつて、日本の伝統的な芸術が、国際性のある芸術であることを実証したかったのです。

三つ目は、日本人が、外国人の演ずる本格的な「仮名手庵歌舞伎」を見ることによつて、一ちょっとおこがましい言い方ですが、日本人自身に、自分達がもつてゐる文化遺産のすばらしさに目を開いてもらいたかったのです。

私は、「歌舞伎」を教えるまで十代の若者が、これほどまでにすばらしいとは知りませんでした。

汲んでも汲んでも湧いてくる泉のよう、無限の可能性とエネルギーを秘めた生徒と、じかにぶつか
り合うことで、私はどれほど多くのものを教えられたかわかりませ
ん。ことばの違いを乗り越えて、
体当りで日本の伝統文化に取り組
もうとする、この生徒の熱意こそ
が、実は「仮名手庵歌舞伎」を支

えて来た一番の原動力なのです。

さて「仮名手庵歌舞伎」こと

しは七月十七日（木）と十八日

（金）に、神戸文化ホールで「十

周年記念公演」を行ないます。演

し物は、絢爛豪華な、歌舞伎十八

番「助六」と、江戸世話物「法界

坊」です。なつかしい卒業生も交

えて、ヴェテランぞろいの豪華な顔

ぶれです。

どうぞ今からご予定の中にお加
え下さいますよう、「神戸っ子」を
通じてお願い申し上げます。また
「仮名手庵歌舞伎」をここまで育
て下さいました多くの方々に心
から御礼申し上げます。

タルホと わたし

市野木江充子

ヘニットデザイナー



「トンコロビ……ビ……笛
の音がすると、月の光が、またひ
としきり、降りこぼれてきます」

度、神戸っ子ブルーメール賞をいただくことになった。

私は、一つの仕事を終えると、翌日からもうけろっとして、その雰囲気が持続するということはあまりなく、すぐ次の仕事に入れるたちなのだが、その後、新聞などで読まれたらしく、見知らぬタルホ・ファンの方々から、手紙や電話などをいただいて驚いた。いろいろな資料を送ってくださった方もある。私も記事の切り抜きや作品の写真などを送つたりした。また、何かのパーティーなどで紹介されたとき、「ああ、あの一千一秒の……」と言われたりもする。そして今度の受賞である。終った仕事でこんなに続いていると、いうのは、私にとって始めてのことであった。

こんなことで、私もまた熱烈なタルホ・ファンだと思われているらしいのだが、ちょっとニュアンスが違う。私はそれ程、多くを読んでいないし、稻垣足穂に関して深くを知らない。彼の作品の中では、他に「星を売る店」「チョコレット」「黄漠奇聞」などが好きだ。さて、この「一千一秒物語」……

読みれば読む程、私の五感をニヒリティックに刺戟する。硬質的で宇宙っぽい感性の世界、これは今私が飢えている部分を充分に満たしてくれるものであった。

次も「タルホ」ですか?とよく聞かれる。

その時期に私の感性がどうなっているか私には分らない。
が、今の私の仕事の質から考えて「多分……」と無機的に答えることにしている。

テーマをこれに決めてから、作品づくりが始った。おかしなことに、いつもなら、一番時間がかかるデザイン出しの段階で、この仕事があつという間にできてしまつた。

これに対する素材も満足できるものが充分にそろつた。まずは順調なすべり出しといえよう。私はこのテーマから、クールで繊細をしてちょっと醒めたユーモア感覚のある作品を創ろうとした。

ニットは一本の糸を丹念に編み上げていくものだが、ニットそのものの持つ、しなやかさ、心で着られる自由さ、といったものがまさにこのテーマにぴったりであった。

ショウの場合、私は、背景となる会場、印刷物・音・光、その他シヨウに関するすべてのことを、コスチュームと同じウエイトで、考へる。

予算という大きな問題を前に、理想から、次第に遠ざかっていく様は、私にとっては作品づくりの苦しみ以上のものである。

昨年の創作発表会「一千一秒物語」——稻垣足穂——に対して、この

□ある集いその足あと
中内功社長を閉む会

中内学校

有吉雄太郎

（紀新聞発行社長）

同じような性質の会で、関西には井植学校や日向教室など、経済界の大御所が主宰された若手経済人の研鑽の場であつて、中内社長や牛尾氏は井植学校の卒業生でもあります。

昨夏より牛尾吉朗ウシオ工業社長が中心となつて、中内功ダイエー社長を校長先生（ご本人は「私は教頭です」とおっしゃるが）に口説きおとし、神戸経済界の昭和生まれの若武者たちが、中内社長を、経済界の、経営者としての、あるいは人生の大先輩として募りよう集まつた25名の小集団として出発したのが中内学校である。



ポートアイランドの模型を前に“勉強会”

このような先輩たちの足跡をふまえて、昨年10月に発足した当学校は、毎月一回を原則に例会をもち、中内校長とゲスト講師を中心にして討論、情報の交換を行ない、研鑽の場とともに、昭和生まれのロマンを語る場として続けられる。中内校長のスケールの大きさ、ロマンの拡がりの果しなさは文句なく楽しい。今、神戸のまちで、経済はもちろん、社会、文化、教育など、いろいろな分野において求められるものは、このような意味でのスケールの大きさだろう。

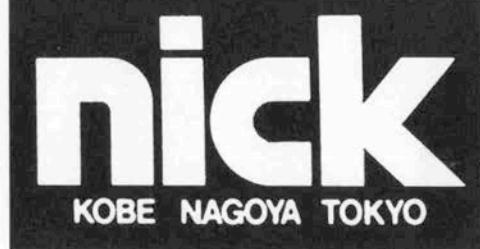
中内校長のスケールの大きさ、ロマンの拡がりの果しなさは文句なく楽しい。今、神戸のまちで、経済はもちろん、社会、文化、教育など、いろいろな分野において求められるものは、このような意味でのスケールの大きさだろう。

時期を同じくして中内校長は神戸商工会議所の副会頭に就任され、また校長のご出身地でもある神戸に流通大学創設の構想を発表されたことは、我々“生徒”たちにとっても大きな喜びである。今日までの神戸経済界の動きは、空港の誘致問題にしても独走の感がないでもない。ということは、経済界が生活者とともに歩む姿勢が欠けていたということである。中内校長の場合、日頃の企業活動においても生活者とともに考え、歩んで

この中内学校を通じて、中内校長のスケールの大きさの中で生徒たちが、何か神戸のまちづくりの上で不如意な人間としての我々の世代の分担を果せることが将来できるものと信じている。

会員／有吉雄太郎（紀新聞発行社長）、井植貞雄（上島珈琲本社副社長）、尾吉朗（ウシオ工業園専務）、鶴岡必三（ハカネボウベルエイシー副社長）、上島達司（UCC上島珈琲本社副社長）、尾吉朗（ウシオ工業園専務）、小笠原亮（川西倉庫副社長）、河野忠博（川西倉庫副社長）、木津雅敏（神戸モールド鋼社長）、岸本晃（岸本酒造専務）、五代友和（摩耶商事副社長）、小林博司（小林桂樹社長）、下村光治（川西倉庫副社長）、大庭博司（兵庫ドヨタ自動車社長）、田崎俊作（田崎真珠園社長）、五井新吉（神戸船渠工業園社長）、寺本漢（神淡路屋社長）、土居丈治（土居自動車工業園社長）、馬越哲（神戸眼鏡院専務）、南部圭三（光印刷社長）、野沢太一郎（ノザワ社長）、野村昌平（南ダイエー常務社長）、畠嶋広敏（神淡路屋社長）、宮田喜夫（神田組専務）、三輪吉郎（三輪運輸工業園社長）、安好匠（神戸市教育局長）、若林邦昌（忠勇園社長）

こうべに
ふれあいの
ディテールを
心の通う店創り



神戸日建

商業施設全般・調査企画・店舗装備・設計施工

株式会社 神戸日建

本社(設計室) 神戸市葺合区御幸通3丁目2-20
PHONE (078) 252-1321(代)

神戸事業部 PHONE (078) 251-3525(代)
名古屋事業部 PHONE (052) 561-3618
東京事業部 PHONE (03) 278-1369
●ローン・リースの開店資金相談

オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



月例グルメの会：シェフによるメニュー説明

年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテルでの宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたします。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随时、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

TEL (078) 331-8111

□連載エツセイ／私のひろいもの ▲14▽

ナンコハン

竹中 郁

（詩人・絵も）

楠公前の話のつづきを書く。坪井の時計屋のとなりに塩問屋の松原という家があつて、これが小磯良平の実母の家であつた。明治時代に娘を神戸女学院へ通わせるくらいだから裕福だったにちが

いないが、塩が政府の専売になってしまって、昔ほどの繁盛ぶりではないらしく、広い店の土間はガランとしていた印象がのこっている。既得の営業権をにぎつたまま、ただ、商売の方はアグラを搔いているといった状況だったのだろう。

小磯君のはなしによる、法事だかお祝い事かに子供ながらに招かれて、一人前のお膳の前に座らされ、大いに照れてはにかんでしまったそうだ。その従兄に当たる治郎さんという人のあしらいで、二人だけが縁側に座を移して、やっと胸がおさまって御馳走がのどを通ったという。

この少年時代の心理状態は他の場合にもしばしば現われたものらしい。一つ歳下に恭平さんという弟さんがあつて今でも健在だが、この良平、恭平という兄弟を誘いにくる同年輩の近所の友だちがどういうわけか良平を敬遠してか疎んじてか、恭平さんにだけ声をかけてくる。それがくやしく、かなしく、さみしかったもんだと、老人にな

つてからの小磯良平は何度も述懐した。この少年心理の経験談を探ることで、小磯芸術のある部分を解明できる。

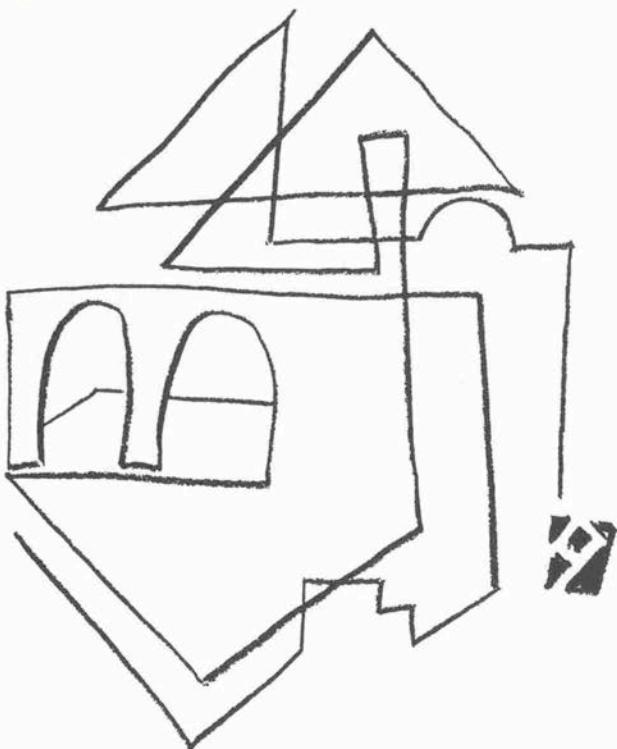
坪井の時計屋は先代松本幸四郎（団十郎、幸四郎、松緑の三兄弟の父）が大の頭領であつた。おやじがそんな芝居好きからか、息子が脚本を書いて、どこかの懸賞募集に応じて入賞、それを菊池寛がほめた。大正十年くらいのころだ。そのあと、この坪井正直という人は宝塚の作者になつたようだつたが、大きな時計屋の若旦那が芝居者らしく意気がついて歩いているのを神戸市内で見かけた。履いている下駄は、なんと東京日本橋大和屋の白なめし鼻緒だった。なるほど、高麗屋幸四郎からのみやげか伝授かだなど、わたくしは合点した。

わたくしの父の友人に江戸っ子のパリパリの人があつて、うちでもその下駄を一級外出用に使つていたから、中学生のわたくしの目にも見破れただ。その坪井の若旦那も、生きていれば八十分は越していられよう。



われていた。金沢庸太郎という医師は神戸二中で小磯やわたくしと同級だった。

楠公前という名称がいつできたかといわれるとこれはわたくしの手には負えない。市内電車が東西に走りだしたころか、その後、あそこが交差点になつて神戸駅前から栄町線へ合流して走るようになつたころか。とにかくはつきりとはわからぬい。



も上級になつてからであつた。市電の停留所の名でも「福原口」などと言いだしたのはずっと後で、はじめはしかつめらしく「多聞通何丁目」だつたから、楠公前もその流儀だったのとちがうかしら。

神社の西側、いまの彫刻の道のどこかに小磯君がよく入つた食べもの屋があつたそうだ。中学時代にまいにち須磨天神浜の水練場へ通わねばならなかつたが、平野梅元町の山から神戸駅まで徒歩で来て、そこで汽車にのる。それで須磨駅までゆく。それが至便だったという。帰りはつかれはてて、楠公前から大倉山を越えてゆくのが辛かつた。そんなときその店へ腰を下ろしてのんやりたべたりしたのだそうな。

店の名もそのたべものも霞の中のようにはやけていて、聞き手のわたくしにはわからない。なるほど、水練でくたびれた脚で、夏の夕方のあつさの中を平野の祥福寺の東まで登り道を帰つてゆくのは、さぞかしんどいことだつたろう。海水を洗い流しもせずのことだろうから、思つただけでも暑苦しい。（このさしこは、旧神戸駅）